

ようこそ 東本梅保育所へ



めざすこども像

『元気に遊ぶ子ども』『思いやりのある子ども』
『感じ考え表現できる子ども』『意欲のある子ども』

1

えがおあふれる だいじないのち ひがしほんめほいくしょ



- 1 概要(職員と園児数)
- 2 保育所を取り巻く環境
- 3 ケガの状況
- 4 ケガの発生状況の分析
- 5 8つの指標に基づいた取組
- 6 成果・課題と今後に向けて

2

1 概要（職員と園児数）



昭和32年（1957年）設立

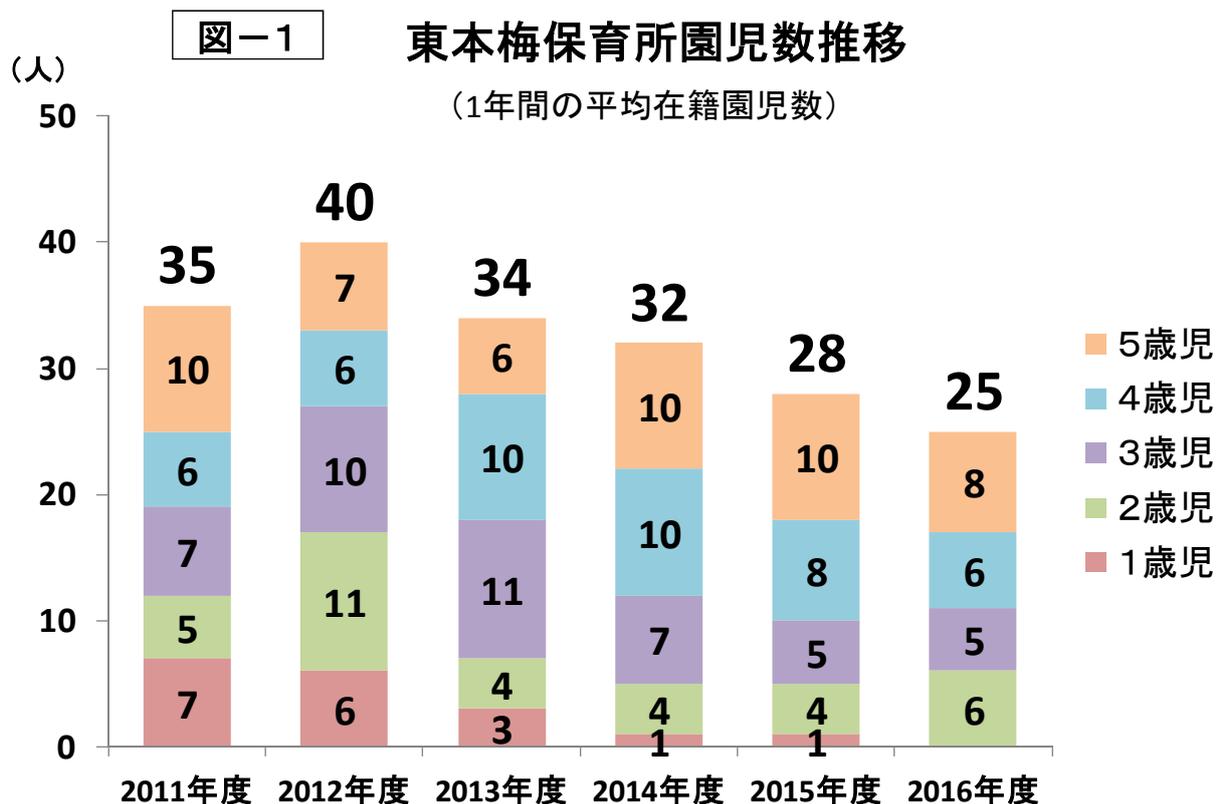
創立60年目

現在 園児数24人 1歳児－3人 2歳児－1人
3歳児－7人 4歳児－6人 5歳児－7人

職員11人

2017年10月現在

3



出典：東本梅保育所データ(2011. 4～2017. 3)

4

2 保育所を取り巻く環境

南丹市



5

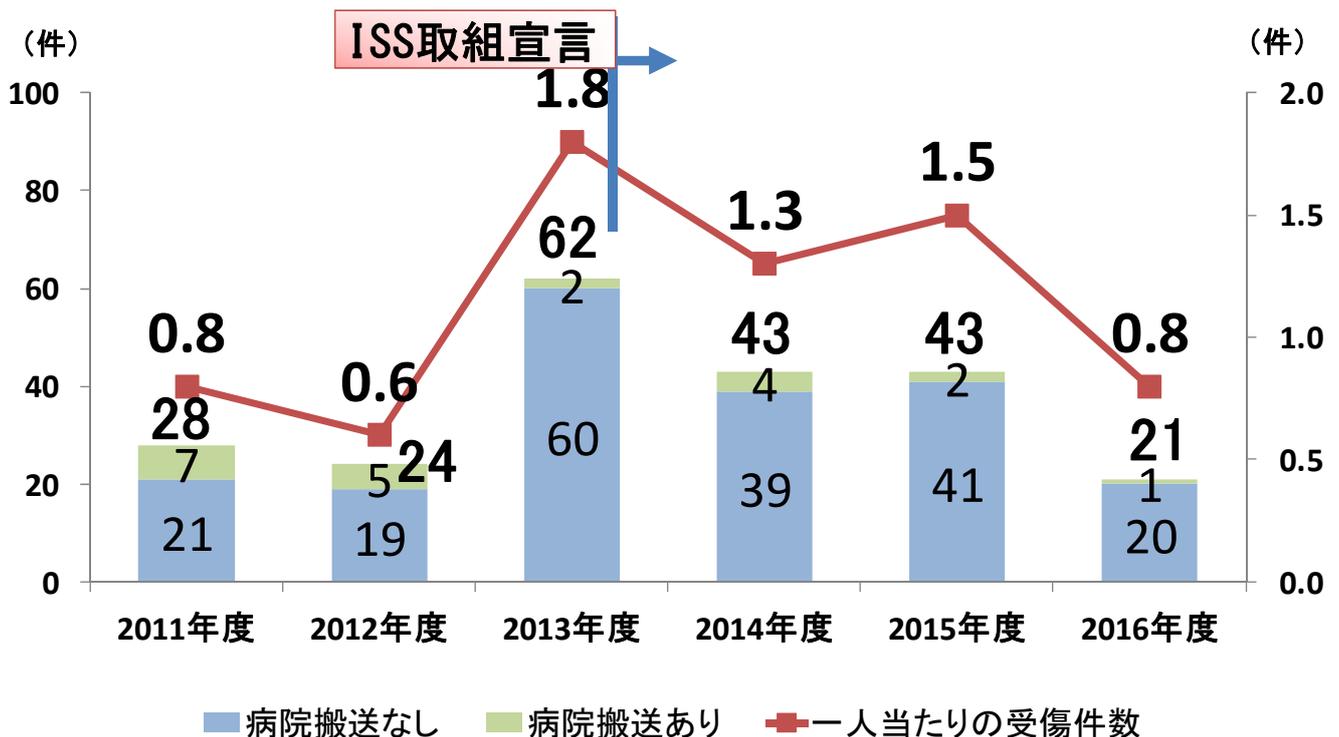




3 ケガの状況

図-2

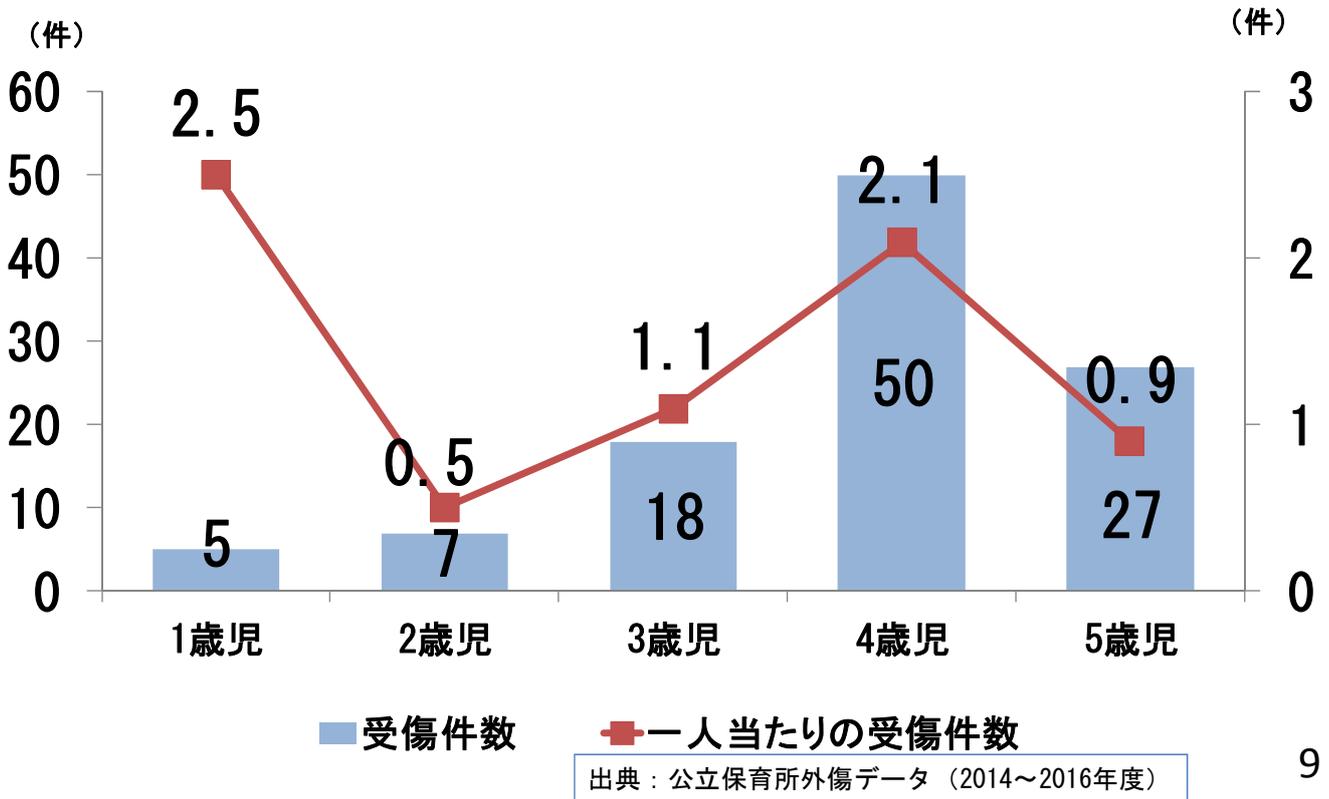
園内での受傷件数・一人当たりの受傷件数



出典：公立保育所外傷データ（2011～2016年度）

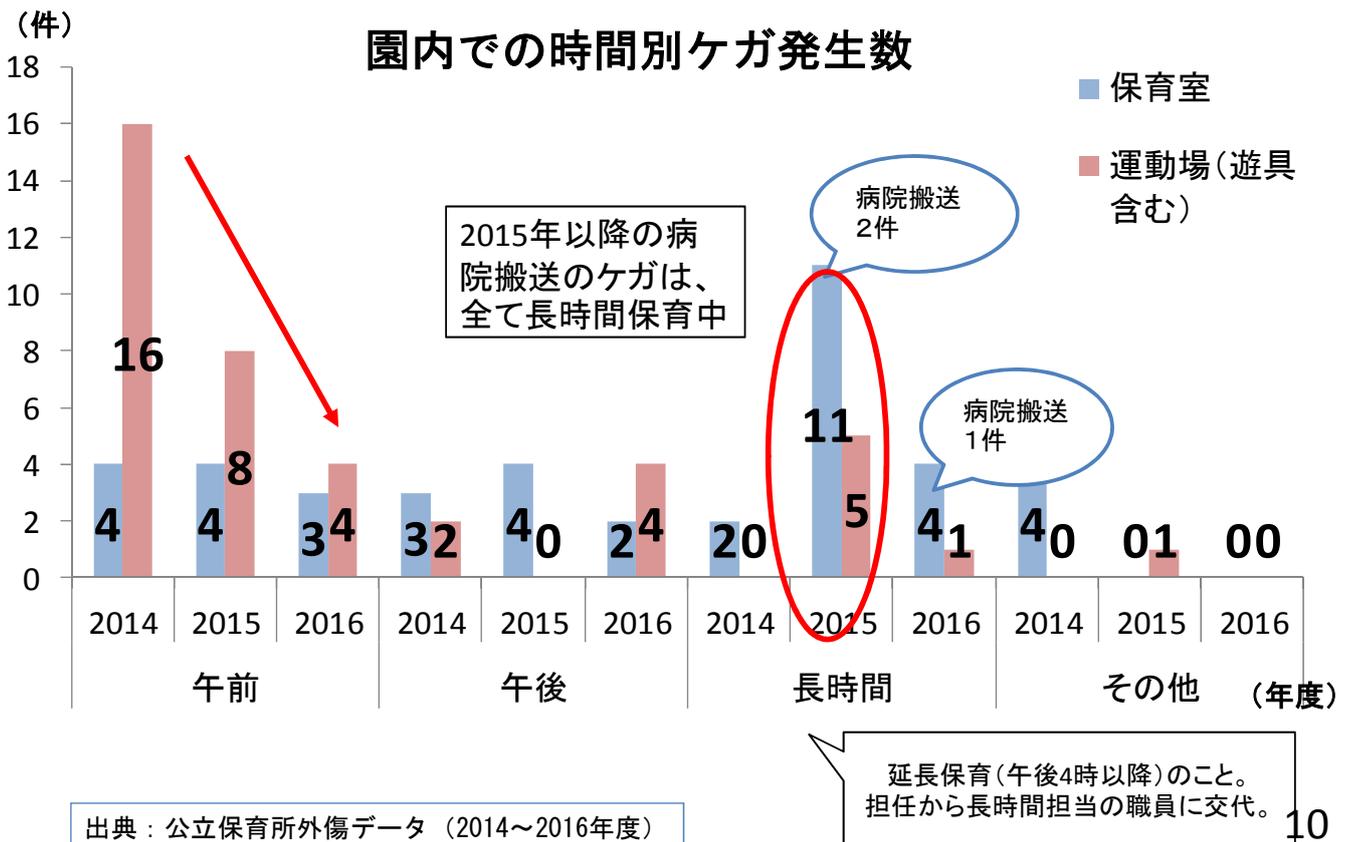
図-3

園内における年齢別ケガ件数・一人当たりの受傷件数



長時間保育中のケガが増加

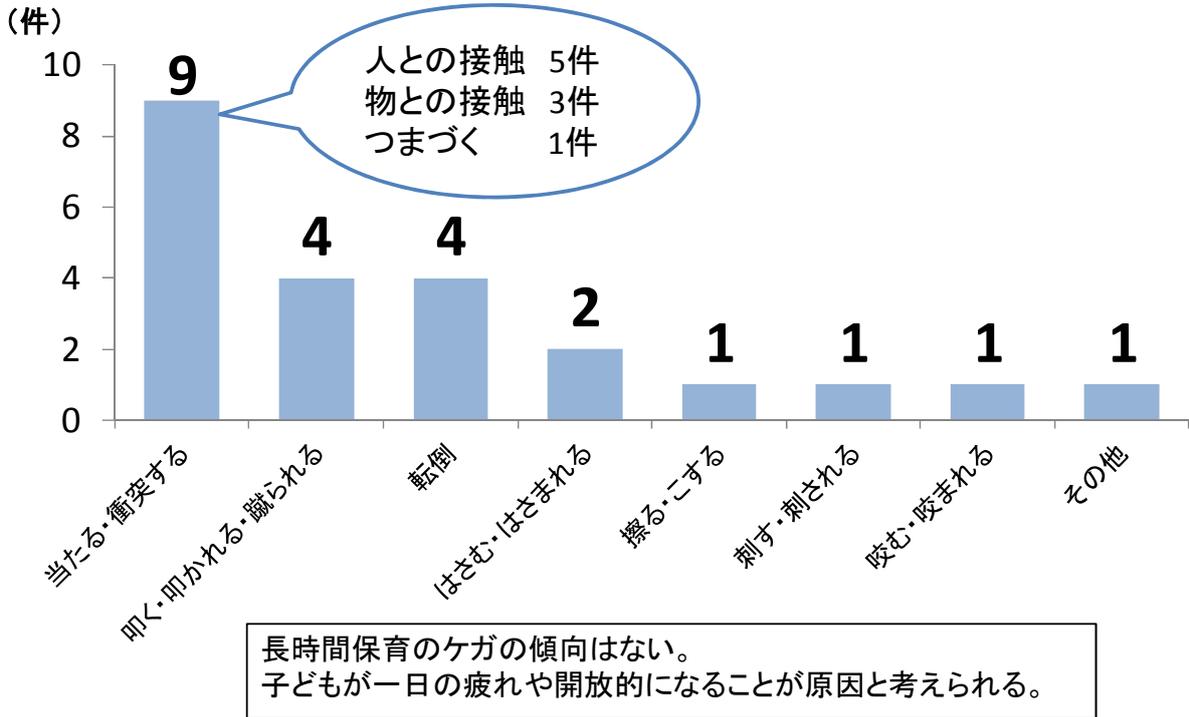
図-4



長時間保育中のケガの原因は様々

図-5

長時間保育中のケガの原因 (2014年度～2016年度)

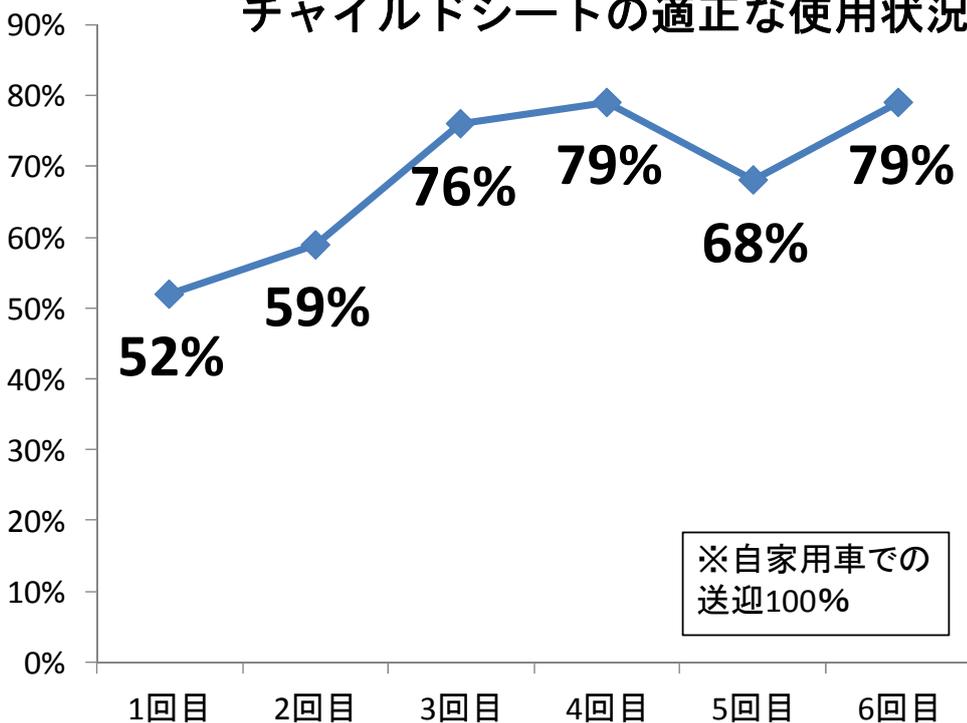


11

チャイルドシートをまだ適正に着用できていない

チャイルドシートの適正な使用状況

図-6



- 1回目 2014年 5月
- 2回目 2014年 6月
- 3回目 2014年 11月
- 4回目 2016年 2月
- 5回目 2016年 6月
- 6回目 2016年 7月

12

4 ケガの発生状況の分析

亀岡市立保育所小規模園グループ 共通課題

場 所		課 題
園 内	園舎内	保育室での「当たる・衝突する」のケガが多い。
	園舎外	運動場での「転倒」「当たる・衝突する」のケガが多い。
園 外		園外保育中の転倒が多い。

13

東本梅保育所の状況から

場 所	課 題
園 内	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間保育中におけるケガが多い。(図-4、5) (※特に保育室のケガは重傷化しやすい)
園 外	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイルドシートの適正な着用に対する保護者の理解に差がある。(図-6) ・大きな池や川が近くにある。

14

5 8つの指標に基づいた取組

指標1 協働を基盤とした、安全向上に取り組む運営体制がある

園内の体制

- 活動方針の決定や推進計画の承認

所長

ISS推進
メンバー
所長補佐
主任保育士

- 課題・プログラム選定
- アンケート等による効果の測定

実行部
(職員)

- プログラムの実施
けがの調査
- 地域・保護者との協働

地域
保護者

- 送迎時の安全確認
- 家庭内でのけがの
予防

15

指標1

地域の体制



16

地域のグラウンド
ゴルフの方との連携

亀岡署との連携



夏の交通事故防止府民運動スタート式



朝の送り時、挨拶をする



お茶ごっこへ招待での交流

指標3 すべての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的な
予防活動をしていること

表-1 取組の全体 (1. 体づくり 2. 安全教育 3. 環境改善)

		園児						職員				保護者・地域			
園内	園舎内	1-1	1-8	2-1	2-9	2-16	3-1	1-1	2-1	2-9	3-1	1-6	2-5	2-14	3-1
		1-2	1-9	2-2	2-10	2-17	3-2	1-2	2-2	2-10	3-5	1-7	2-6	2-15	3-5
		1-4		2-3	2-11		3-5	1-4	2-3	2-11	3-6		2-9	2-17	3-6
		1-5		2-4	2-12		3-6	1-5	2-4	2-14	3-7		2-10		3-7
		1-6		2-5	2-14		3-7	1-7	2-5	2-16			2-12		
		1-7		2-6	2-15			1-9	2-6	2-17					
	園舎外	1-1	2-1	2-8	2-16	3-1	1-1	2-1	2-8	3-1	1-6	2-5	2-15	3-1	
		1-2	2-2	2-9	2-17	3-2	1-2	2-2	2-9	3-2	1-7	2-6	2-17	3-2	
		1-4	2-3	2-10		3-3	1-4	2-3	2-10	3-3		2-8		3-3	
		1-5	2-4	2-11		3-4	1-5	2-4	2-11	3-4		2-9		3-4	
		1-6	2-5	2-12		3-5	1-7	2-5	2-14	3-5		2-10		3-5	
		1-7	2-6	2-14		3-6	1-9	2-6	2-16	3-6		2-12		3-6	
園外	家庭	1-6	2-6	2-11				2-9			1-6	2-5	2-11		
			2-9	2-15				2-10				2-6	2-13		
			2-10	2-17				2-11				2-9	2-15		
	地域	1-3	2-1	2-11	3-1		1-3	2-1	2-10	3-1	1-3	2-5	2-11	3-1	
			2-5	2-12	3-2			2-5	2-11	3-2	1-6	2-7	2-12	3-2	
			2-7	2-14	3-3			2-7	2-12	3-3		2-8	2-13	3-3	
	2-8	2-15	3-4			2-8	2-14	3-4		2-9	2-14	3-4			
	2-9	2-17	3-6			2-9	2-17	3-6		2-10	2-15	3-6			
	2-10		3-8					3-8			2-17	3-8			

(※数値はプログラム番号)

指標4 ハイリスクのグループ・環境及び弱者グループを対象としたプログラムがある

課題：大きな川や池がある(環境)

<p>設定理由</p>	<p>台風時、河川が氾濫し登降所時に通行する道路が冠水した為。</p>
<p>対策内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園児、保護者、地域と一緒に避難訓練を実施する。 ・地域の方や駐在所に見守りの依頼をする。
<p>現在の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・台風や災害時に河川が氾濫した ・保育所前の溝の水量が増し、園舎の中に流れてきた。 ⇒ケガや事故にはつながらなかった。

19

指標4

避難訓練の実施



地元地域の参加

中学生の参加



2014年度～2016年度

園児、職員の避難訓練…毎月1回実施 36回 保護者会研修…10回
 地域の方、未就園児親子、小中高学生と避難訓練…年1回実施 9回

20

指標4 ハイリスクのグループ・環境及び弱者グループを対象としたプログラムがある

課題: アレルギー対応児がいる(人)

<p>設定理由</p>	<p>アレルゲンのある食品に触れてはいけない園児がいる為。</p>
<p>対策内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者と保育所職員が毎月献立表のチェックとアレルギーの現状や進捗について除去会議を実施する。 ・ 保護者は、毎日除去内容記載ノートや表に確認サインをする。 ・ 職員は、毎日除去内容を朝礼時と調理師への人数報告時に口頭で確認し・ボードに記載する。 ・ 飲食時は、複数職員で確認する。
<p>現在の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 細かな対策と保護者との連携・職員間連携により事故はおこっていない。

指標4

アレルギー対応児への取組み



除去内容記載ボード



除去記載ノートなど

食事時の様子



2014年度～2016年度
保護者と職員の除去会議…48回（2014年度12回 2015年度12回 2016年度24回）

指標5 入手及び活用可能な根拠に基づいたプログラムを実施していること

ISS 認証時

転倒が多い
 発生場所…運動場、保育室が多い
 発生要因…つまずく、すべる、バランスを崩す

予防対象	方向性	対策
転倒防止によるケガ予防	安全意識の向上	(1) 安全意識の向上プログラム
	保育室と運動場の環境の改善	(2) 環境整備プログラム

23

指標5 入手及び活用可能な根拠に基づいたプログラムを実施していること

現在の状況

- ①転倒によるケガが多い (発生場所:運動場)
- ②長時間保育時のケガが多い (発生場所:保育室)

予防対象	方向性	対策
①転倒によるケガ	安全意識の向上 保育室と運動場の環境の改善	(1) 安全意識の向上プログラム
②長時間保育時のケガ		(2) 環境整備プログラム

内容追加

24

指標5 入手及び活用可能な根拠に基づいたプログラムを実施していること

I S S 認証時から現在の状況

チャイルドシートの不適正な使用状況がある 安全意識の啓発と適正な着用



予防対象	方向性	対策
チャイルドシート着用	チャイルドシート着用率の向上と安全意識の向上	(3) チャイルドシート適正着用プログラム

25

指標5

課題解決に向けた取組

安全意識の向上プログラム

予防対象	①転倒によるケガ、②長時間保育時のケガ
課題	園児の安全意識の向上
対象者	全園児
概要	・安全安心マップにシールを貼る。ケガの場所を知り、その場にあった適切な行動について考える。 ・安全集会を実施する。ケガ・事故の予防や自分の身を守る方法について考える。
改善点	・危険箇所マップに、危険箇所発見者の写真を貼り、安全意識を高める。 ・ISSおたよりを発行する。 ・長時間保育時の集会をする。

26

指標5

安全の意識向上プログラム 活動実績

長時間保育時安全集会



ハートちゃんチェックの後、長時間保育前の安全集会でみんなに危ないところを知らせます。

「門の柵にのらないよ。」



『廊下はあるきましよう!』



「ここに指はさみクッションがあるよ。」



「みんながつけているハートちゃんのキーホルダー」



安全集会 2014年度8回 2015年度8回 2016年度8回
ハートちゃんキーホルダー配布とハートちゃんチェック開始
(チェック回数 2014年度2回・2015年度1回・2016年度4回)

27

指標5

課題解決に向けた取組

環境改善プログラム

予防対象	①転倒によるケガ ②長時間保育時のケガ
課題	環境の改善
対象者	全園児
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で毎月1回マニュアルに従い安全点検を行う。園内外の危険箇所がないか記録する。 ・運動場の石拾いや整備をする。 ・保育室の環境整備と安全点検をする。 ・長時間保育士との引き継ぎを行う。
改善点	・長時間保育室の環境整備と安全点検をする。

28

指標5

環境改善プログラム 活動実績

追加

グラウンドの整備



石拾い草引き
「沢山の草をひいたよ。」

長時間保育室の環境整備



平常保育時の保育室



長時間保育時の保育室
⇒安全マットを拡大

29

指標5

課題解決に向けた取組

チャイルドシート適正着用プログラム

予防対象	チャイルドシートの不適切な着用によるケガ
課題	チャイルドシートの適正な着用率と安全意識の向上
対象者	全園児・保護者
概要	<ul style="list-style-type: none">・毎日送迎時に、職員による駐車場の見守りを行う。チャイルドシートの適正な着用の呼びかけを実施し、事故予防に努める。・警察署や駐在所と共に、交通教室を行う。チャイルドシートの適正な着用や交通ルールについて、保護者へ啓発し、安全意識の向上に努める。
改善点	<ul style="list-style-type: none">・チャイルドシート着用の啓発のぼりの設置する。・ISSだよりを発行する。

30

指標5 チャイルドシート適正着用プログラム 活動実績

交通教室での啓発



駐車場での啓発



改善

のぼりでの啓発

追加



「チャイルドシートに正しく座っていますか？」
「座っています。」

駐車場での啓発	2014年度2回	2015年度3回	2016年度3回
保護者のアンケート	2014年度2回		

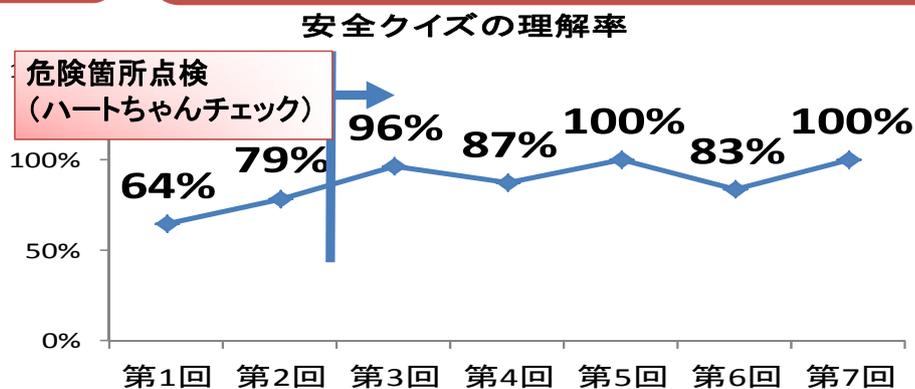
指標7 予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組みがあること

安全意識の向上プログラム

短期的
中期的指標

【指標】 園児が安全安心マップで危険を認識する
安全集会で安全に行動する意識の向上
【測定方法】 安全クイズの理解率

図-7



出典：東本梅保育所データ (2014年～2017年7月)

長期的指標

【指標】 運動場の転倒と
長時間保育時のケガの減少
【測定方法】 ケガ数の記録

指標7 予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組みがあること

環境改善プログラム

短期的
中期的指標

【指標】 安全点検をして環境改善する
【測定方法】 安全点検による改善個所の数

安全点検	2014～2016年度36回実施
運動場の整備	2014～2016年度18回実施
保育室の安全点検	2014～2016年度36回実施

出典：東本梅保育所データ
(2014～2016年度)

長期的指標

【指標】 運動場と
長時間保育時のケガの減少
【測定方法】 ケガ数の記録

33

指標7 予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組みがあること

チャイルドシート適正着用プログラム

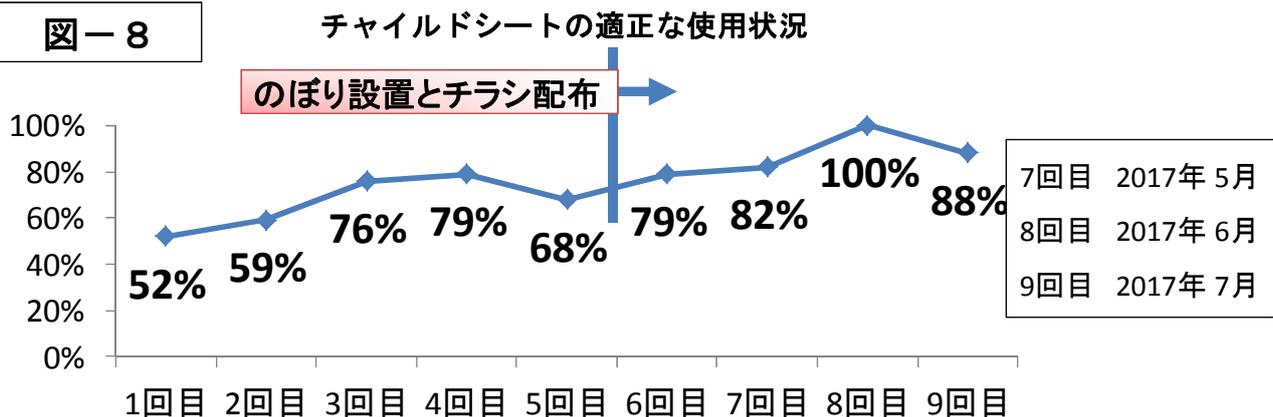
短期的・中期的指標

【指標】 保護者や園児のチャイルドシートの適正な着用に対する意識の向上
【測定方法】 チャイルドシートの適正な使用状況

長期的指標

【指標】 チャイルドシートの適正でない着用によるケガや事故の減少
【測定方法】 チャイルドシートの適正な使用状況

図-8

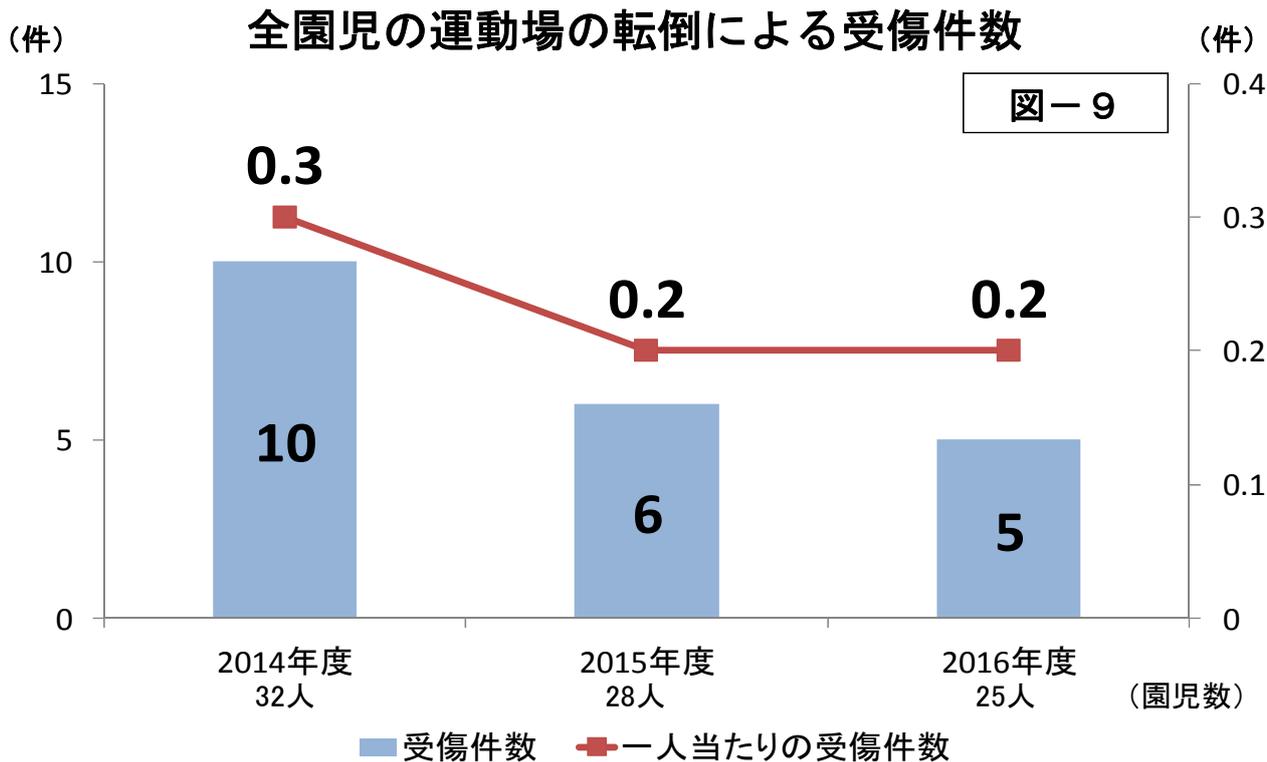


出典：東本梅保育所データ (2014年～2017年7月)

34

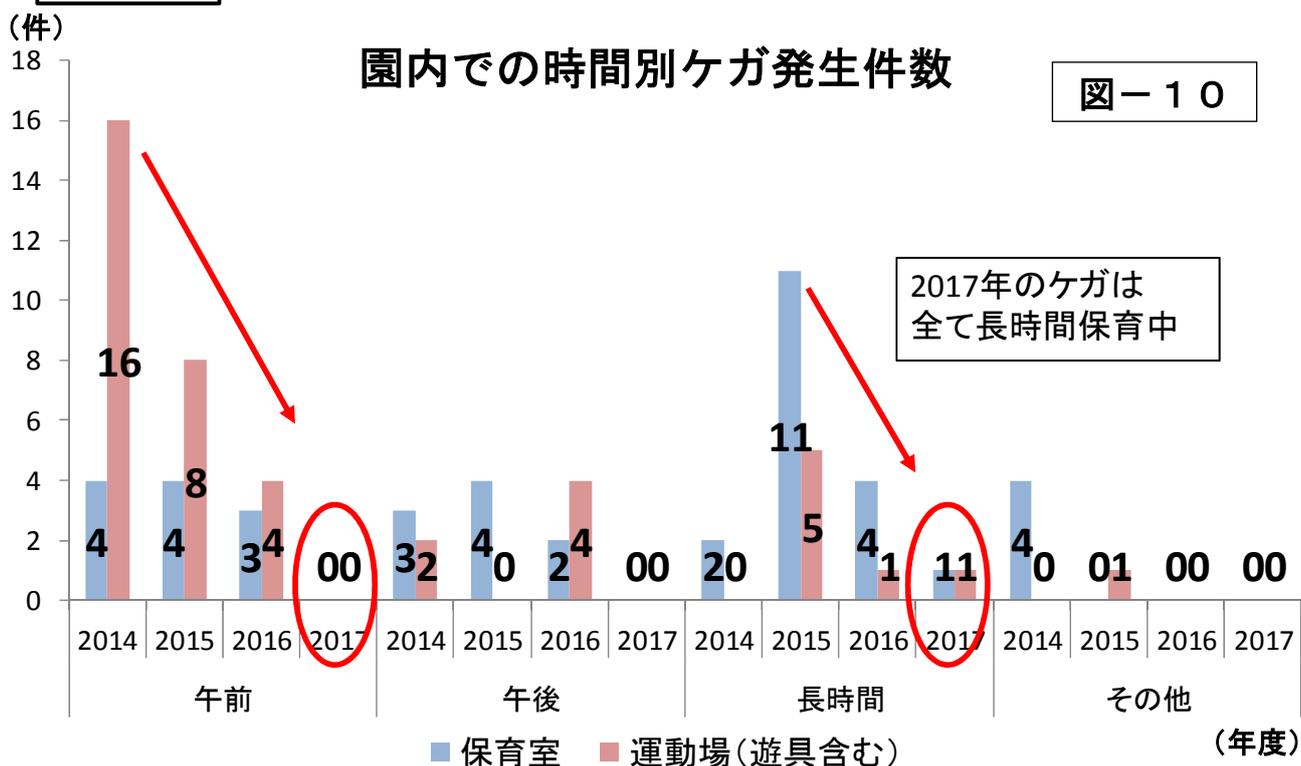
指標7

転倒によるケガは減少傾向



指標7

長時間保育中のケガは減少傾向



6 成果・課題と今後に向けて

気づきや変化

- 子どもの安全意識が高まり、職員間のより充実した連携によりケガの減少につながった。
- チャイルドシートの適正な着用により、保護者の交通安全意識の高まりにつながった。
- 園児、保護者、地域の安全意識の向上につながった。

37

現在の課題

- 子どもの長時間保育時のケガが多い。
- 保護者のチャイルドシートの適正な着用を含めた安全意識やISSの認識の継続が難しい。
- 職員のISSに対する意識が共有できていない。

38

今後の計画

- 子どもと職員の長時間保育時での安全意識の高め、環境を整えます。
- チャイルドシートの適正な着用により、子どもの命を守ります。
- 保護者、地域、保育所との連携した取り組みを行い、子どものケガについて考えます。

39

本日はありがとうございました!



今後も安全安心な
保育所を目指します



東本梅保育所

40